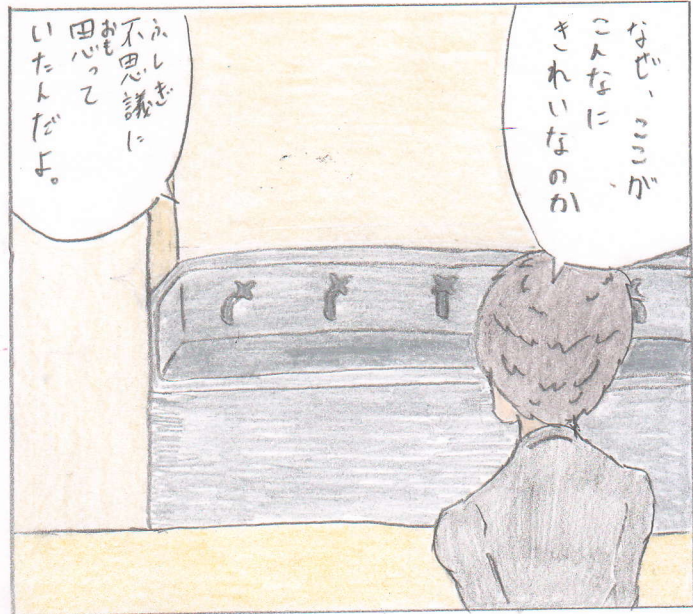


なに こと  
何事にもいっしょうけんむい  
～ 夢 中 になって～



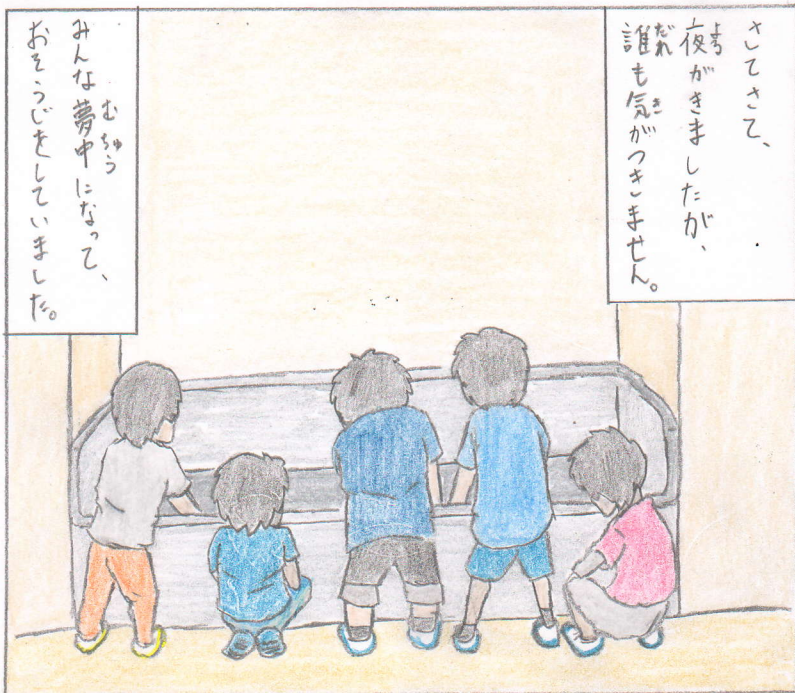
ときを忘れるくらい、  
夢中になって  
おそうじを  
しているね。

その秘密の  
正体は、  
君たちだったんだ。



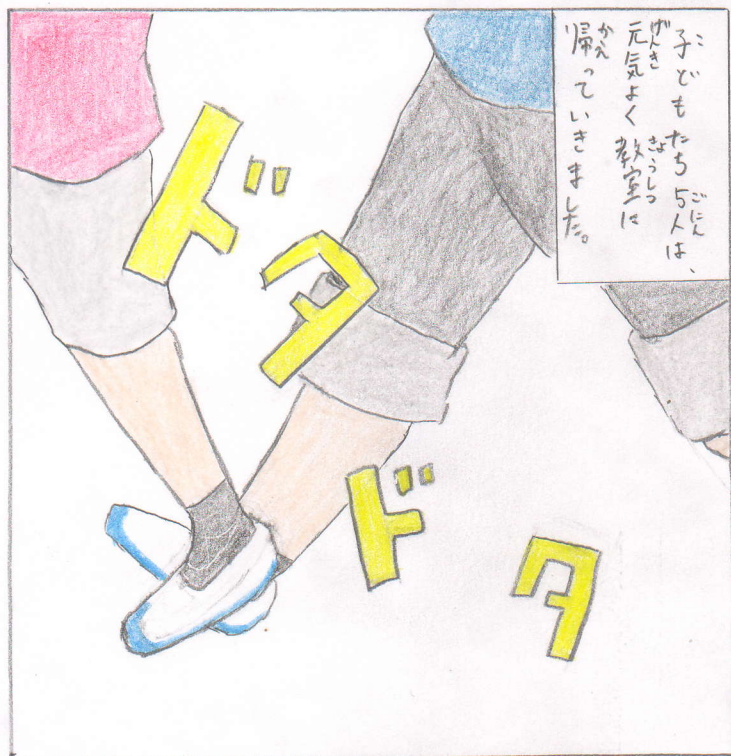
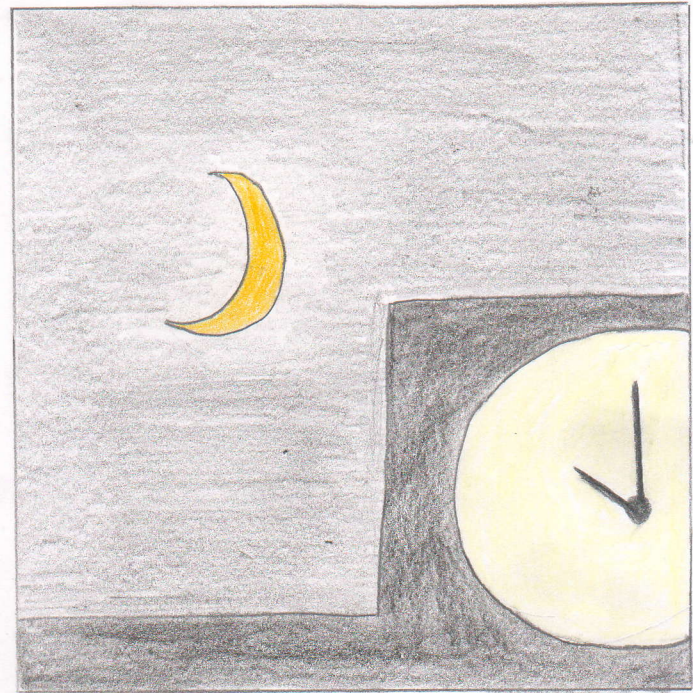
不思議に  
思っ  
て  
いたんだよ。

なぜ、ここが  
こんなにか  
きれいなのか

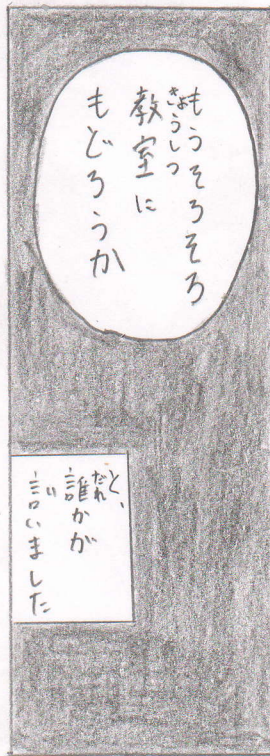


みんな夢中になって、  
おそうじをしていました。

やしてきて、  
夜がきましたか、  
誰も気がつきません。



子どもたち五人は、  
元気よく教室に  
帰っていきました。



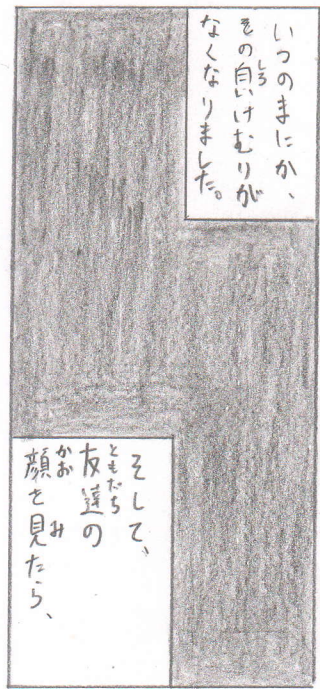
純うそろそろ  
教室に  
もどろろか

誰かが  
言いました



朝がきて、  
また夜が  
きても、

おそうじを  
していました。



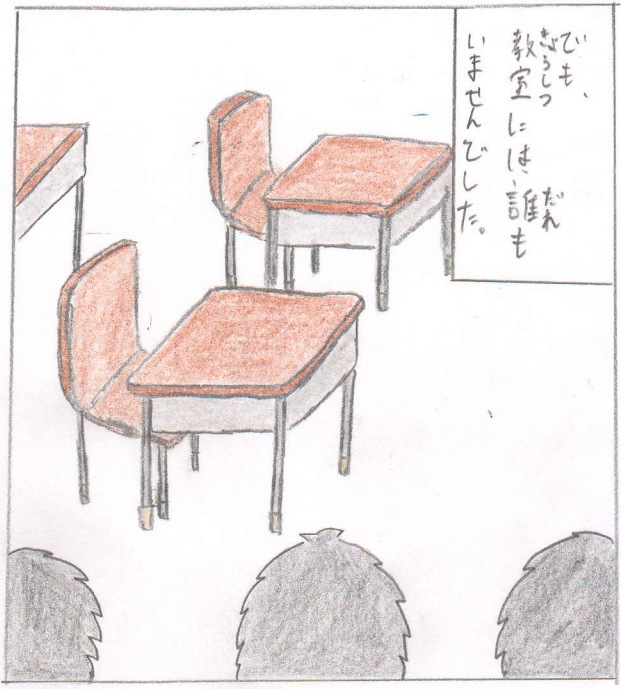
いつのまにか、  
その白いけむりが  
なくなりました。

そして、  
友達のか  
顔を見たら、

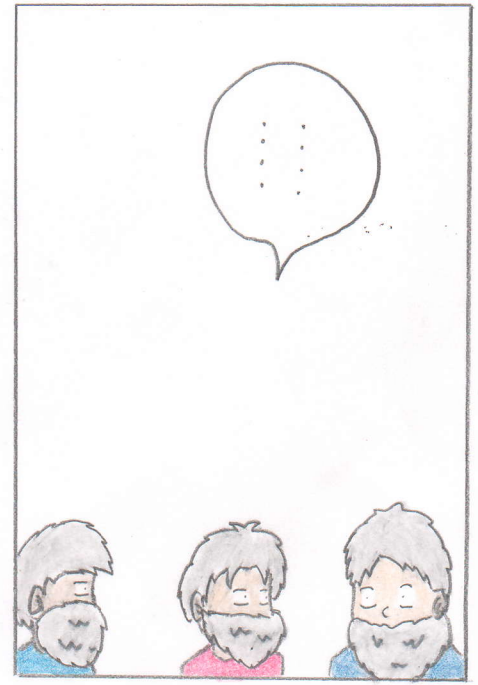


も

その時、突然、  
白いけむりが、もくもくと  
教室中に広がりました。

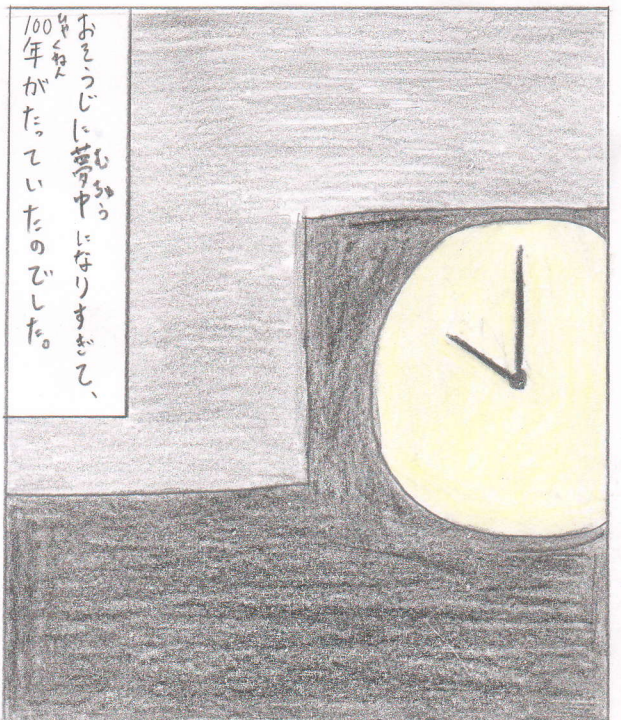
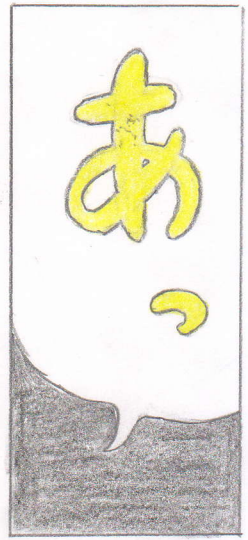


でも、  
教室には誰も  
いませんでした。

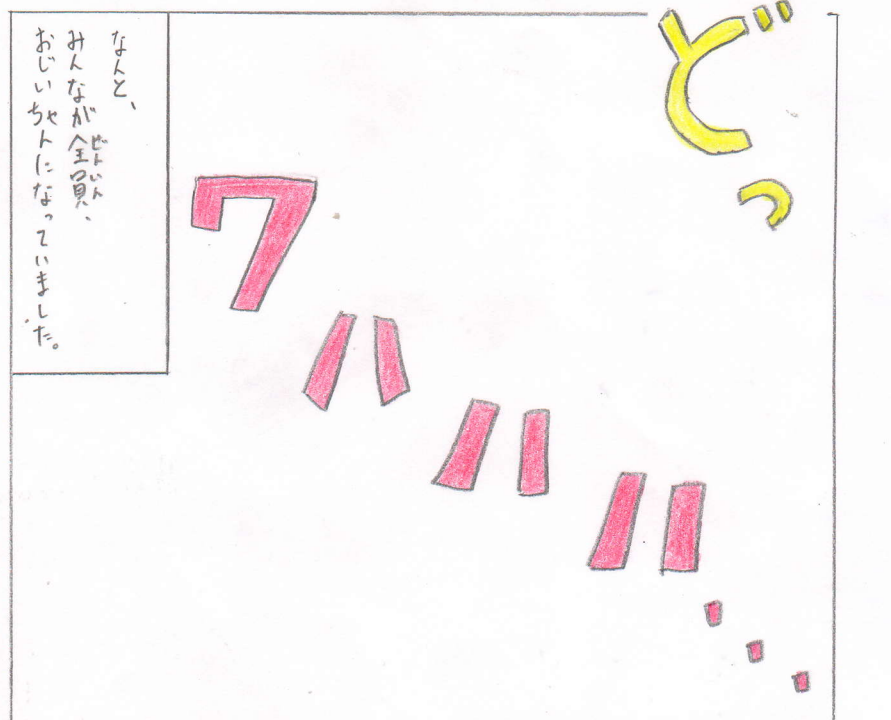


白いけむりが  
生えてきました。

みんなの顔に、



おそっじに夢中になりすぎて、  
100年かかっていたのです。



なんと、  
みんなが全員、  
おじいちゃんになっていました。

ど